

右は深大寺、深紗堂周辺からの湧水でできている小川。昨年きれいに整備された。川べりに近寄れないのが残念だが、「蜚、カワニナ、ヤゴが生息しています」という看板が立てられ、せせらぎの音が聞こえる。一ヶ月もカラカラ天気が続いているが、この冬は豊富な湧水で小川の水は涸れることが無い。



調布は多摩川が浸食した雛壇状の段丘地です。南に流れる多摩川の上に立川段丘、その上は武蔵野段丘となっており、崖の下からしみ出るように湧いた水は野川や府中用水となつて流れています。



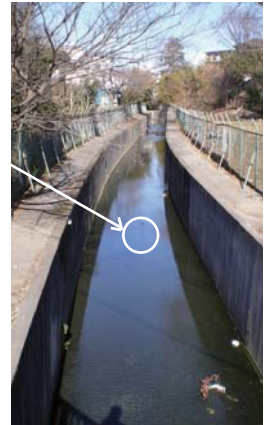
左は都立農業高校神代農場。写真奥の石垣から湧き出す水を利用してワサビの栽培がおこなわれている。農場内を小川となつて流れているがフェンスの所で暗渠へ落とされ、左須の田んぼまでは顔を見せない。



るさとの風景」に出てくる深大寺用水と共に、かつては上の原の小川となっていたのだろう。



写真ではわかりにくいですが右は府中用水から湧き出す水。かつて三面張りの河底から湧いた水でコンクリが壊れたため、噴出用の口を設けたという。京王リニアゲージに流れ込むこの川では、噴水のように湧き上がる所もある。



野草園の北側、階段の上り口のあたりではかなりの水がしみ出すように湧いている。真冬に手を入れるとビックリするほど温かい。

晃華学園下のマンシヨンの玄関口には湧水でできた小さな池が残されている。落とされた水はどこへ行くのだろうか。これが二面「ぶ

冬になると群れで渡来し全国的（調布市街地でも）に見られる代表的な冬鳥ですが、肉が美味なのか日本に上陸したところで昔は「カスミアミ」等で密漁捕獲されていた可哀相な鳥です。
シベリア・カムチャツカで繁殖し、渡来してしばらくは小集団で生活し低山などでイイギリやカラスザンショウ・ハゼの実など木の実を食べます。
やがて食べ物求めて分散し市街地周辺の民家の庭木の実をついばみます。また公園、畑や川原などの地面、雑木林などでは落ち葉を嘴で掻き分けて土に潜むミミズや虫を取ります。この頃になると単独行動がよく目につきますね。
多摩川の観察会ではホッピングでピョンピョンと数歩跳ねては立ち止まり背筋を伸ばし直しし胸をはるようなしぐさで周りを見回していました。
東京近辺では例年ゴールデンウィークのころに再集結し北の国へ帰ります。健気に荒海を超え日本までやって来た彼女達（？）をやさしく見守るうではありませんか。（里 厚雄）

ツグミ



写真 高野伸二著「日本の野鳥」

調布の鳥 生き物

花の履歴書⑦

戸部英貞 (絵・文)

マンサク (満作)

マンサク科



Hamamelis japonica Sieb. et Zucc.

春の陽気は日替わり、温かくなつたと思うと翌日に寒波が訪れ雪を降らせたりする。こんな三寒四温が過ぎる頃になると、陽射しも強くなり、用心深い植物たちも春の訪れが近いことを察し、芽を出し、つぼみを膨らませる。

暖かな陽射しに誘われ、布田崖線の雑木林へ山に出かけてみた。日溜まりでは早くもオオイヌフグリが青空を写し取ったようなコバルトブルーの花を咲かせ、地面に張り付くようにして寒さを防いでいたタンポポも葉を立ち上げ、つぼみを膨らませながら春一番が吹くのを待っている。

林の中のアチこちに緑が目立ち、膨らみ始めたコナラやクヌギの梢を見上げながら歩いていると、小枝の上で黄色い足を伸び縮みさせている蜘蛛の群れが目止まった。啓蟄にはまだ間がある季節にと、目を疑いながら近づくと、

蜘蛛と見間違えたのはマンサクの花だった。

折りたたんだ細い紙テープのような4枚の花弁は、まだ折り目の皺が残し、いかにも窮屈だったと云わんばかりに、手足を四方に伸ばしていた。

マンサクは、寒さにめげず全ての花に先駆け「まず咲く」ことから転じたと言うのや、黄金色の花が枝一面に咲く様子から豊年満作に通ずるとして「満作」と名付けた説がある。マンサクは北海道から九州

までの日本全土のほか中国、北米にも自生するが、地域により変異が多く、基本種に対し、関東から東北地方の太平洋側のものはオオバマンサク、北海道から日本海側のものはマルバマンサク、中国地方、四国の一部にアテツマンサクが変種として扱われているほか、アカバナマンサク、ニシキマンサクなどの品種やシナマンサク、アメリカマンサクなどが栽培されている。

ふるさとの

風景

文 瀬本敏行

① 上の原の丘 (私の思い出)

私は昭和一九年豊島区で生まれました。東京が火の海に包まれた大空襲で我家も消失し、父方の実家に疎開、私が三歳のとき東京に戻り、現在北部公民館のある上の原に住まうようになりました。戦争当時上の原一帯は、通信隊が在ったそうので切妻屋根の長屋兵舎が建ち並んでいました。その一部が校舎に改造され、上ノ原小、神中となり、また一部は戦争罹災者、外地引揚者用として、旧兵舎を六畳一間に区切った共同住宅に改造されました。都営住宅(セメント瓦の二戸建て)の建築が始まるまでは、赤松林の中にそんな長屋が点在していたそうです。

建替え前の公民館は、どこぞの保養所として建てられたロジ風のどっしりとした洒落た洋館で吹き抜け板張りの大広間をカーテンで区切って診療室とした医院が開設され私も随分とお世話にな

っていました。



昭和34年頃。フジカラーの裏切りから上の原公園の丘を臨む。まだ生コンも出来ていない。

りました。庭園に当たる部分も、平坦部は麦、さつま芋、里芋の畑になっていました。斜面部も一部畑になってましたが、まだいくらか庭の体を残し、芝生、熊笹、ツツジなどに覆われ、数え切れないほどの赤松が林立し、丘の際に沿って桜の樹が植えられていました。

当時は湧き水と共に丘の下を深大寺用水から続く小川が流れていました。川底が砂利で、流れが多いため遊んでも濁らず、ザリガニはもちろんデングロウやヤゴを獲ったり、堰を作って水浴び、夜は螢を捕まえにいつて蚊帳の中で放すなど、この小川にはよく遊ばせて貰いました。

春は花見、夏は多摩川の花火見物、雪が積もると東側の坂道はゲレンデに変貌し近在のスキーヤーが集まりました。「上の原」の丘は幼年時代のメインフィールドです。大山を従えた富士山がいつでもそこにありました。

佐須のどんと焼き

います。

どんと焼きは、佐義長と呼ばれる小正月に行われる火祭りです。佐須地域では「どんと焼き」と呼び、府中などでも同じようです。お正月の松飾りや門松、書初めなどを持ち寄り集めて燃やします。その火にあたることで、一年間の無病息災がかなうとか、その熾火(おきび)でお餅や団子を焼いて食べることで風邪をひかないなどといわれて

ちょうふあちこち



1月15日

佐須のどんと焼きは、火災予防のため廃止されていたものが、20年位前に下佐須青年会によって再開されました。が、その後も新しい住宅が増え、今後の開催が気になります。(尾辻)

◆若葉緑地の会



12/12(日) 晴れ 参加者11名

年間計画に沿った活動を行いました。

・学習の一環として「巻き枯らし」の実習。
・富士見スポットの整備について話し合い。
(樹間から、素晴らしい富士山を見ることが出来ます。)
・緑地の下部に第二落ち葉溜めを作り、早速落ち葉を入れる。
・上部の野草刈り。通風はよいが、日当たりが悪いので、萌芽更新した若葉のうどんこ病が多い。
・雨水の流れが土を削り崖を流れ落ちるので、横木を埋める。

今日は沢山の活動が出来てとても気持ちの良い汗をかきました。

1/9(日) 晴れ 参加者9名

講師に小池先生を迎えて保全整備、樹木の名前等のアドバイスをして頂く。これからの整備の考え方、間伐した木の利用方法、子供達にどんぐりを植える体験をしてもらう等で、先生の豊富な知識を伺い、落ち葉の始末を皆でしました。

1/20(木) 晴れ 参加者3名

落ち葉の始末、上部南側のコセンダングサとアスマネザサ刈り。コセンダングサの種子の棘で痛い思いをしました。ネズミモチの黒い実は、ヒヨドリがきれいに食べ尽くしていました。お昼頃にオオカキが一羽、上空を舞っているのを、確認しました。オナガ、ヒヨドリ、シヨウヒタキ、コゲラ等が来ています。(住田)

◆入間・樹林の会

12/19(日) 参加者11名

落ち葉かきとマテバシイの木の放置してあった伐採枝の片付けをしました。何年もしていなかったため落ち葉の量は多かったものの力をあわせて作業し気持ちのよい汗をかきました。市民の方が散歩にこられるので、気持ちよく明るい林が目標ですが、まだまだ暗いという感想もあります。散歩をしながら家庭の剪定枝も投げ込んでいくなど、市民のマナーの悪さにつながります。

ツバキの林のサザンカやツバキの花が遊歩道から見えるようになったので冬の林に彩りができました。ツワブキも咲いていました。マンリョウ・センリョウ・ヤブコウジ・ヤブミョウガ・ヤブランの実も色を添えています。鳥はウグイス、メジロ、シジュウカラ。

1/16(日) 参加者12名

準備体操、樹林地内の巡回、方形枠調査などの活動取材を市民活動支援センター(ニッポン制作成用の助成金団体のため)からうけました。2班に分かれての方形枠調査でしたが、日当たりのよい枠では春の植物も観察できました。サカキ・ヒサカキのプチ違いや、小学生も交えたヤドリギ観察、コゲラ・エナガ・ヤマガラ等の野鳥観察もでき、その後は恒例の鍋パーティーで交流を深めました。(安部)



◆カニ山の会



12/11(土) 参加者8名

・落葉溜り移動 落葉溜りが満杯になったため、下層の腐葉土を除去し、全体に減量することを目的に落葉溜りを東側2m程度に移設。設置後3〜4年経過しているが下部は笹が多く、小枝、シユロ等も混じり、落ち葉の腐葉土に比べ、土中の虫が少なく、発酵もしていない。

・落葉掻き 下段上部の通路下から5m程度の落葉掻きを行い、落ち葉溜りに投入。斜面の落葉の堆積厚さは、厚いところでは昨年以前の落ち葉が層状に堆積。土壌の上に今年の落ち葉だけの箇所もあり、状況に合わせて落葉掻きの程度を調整。

1/8(土) 参加者10名

まずは新年の山開きイベント。大木の根元にお神酒、塩、米をお供えし、自然の恵みへの感謝と今年の安全などを祈願する。

・樹勢調査 活力ある雑木林の再生案作成資料のため、カニ山全体の樹勢の調査を行った。エゴノキやコナラの亜高木の倒木が多く見られた。シユロの実生が非常に多く見られ、小さなものは記入しきれなかった。その後、各自の持ち寄りでの懇親会、豚汁鍋を作る。カニ山全体の保全、ツバキ畑跡地の整備、その他について談笑。

1/15(土) 参加者6名 (臨時活動)
(活動報告より)
前回の樹勢調査の残りを行う。

◆環境モニター

1/29(土) 晴れ 参加10名+スタッフ

気持ちの良い冬空。恒例の多摩川野鳥観察を行った。メンバーの中の二人が講師となって2台のスコップをかつぎ、先ずは二ヶ領上河原堰へ。何故かマガモが数羽、堰の水が流れ落ちるところにただずんで居る。遠目に見ると流れ落ちないよう必死にふんばっているような気もするが水は浅いので特に気にならないのだろうか。落葉した木に留まっているように見えるカワウはスコップで覗いてみると残酷にも糸がからんで首つり状態になっていた。

水面には嘴とおでこが真っ白なオオバン、中州の際にはコガモの群れ。「あれは何?」と双眼鏡を覗くうちにもぐってしまふのはカイツブリ。

空にはすべるように飛んでいるトビ、首をすくめて黒い足が目立つダイサギ。

河原で尾をふりふりしているのはセグロセキレイ、ハクセキレイ、タヒバリ。セグロセキレイは日本の固有種ということになっているらしく、このために海外からのバードウォッチャーもいるとか。

そして猛禽類のノスリ・モズ。水鳥のイソシギ。可愛らしいのはホオジロ・メジロ・カワヒワ。その他、シジュウカラ・ツグミ・ムクドリ・ヒヨドリ・ハシブトガラス・ハシボソガラス・スズメ・キジバトと全部で24種を観察できた。(鍛冶)



市内 雑木林めぐり

企画運営：ちょうふ環境市民会議

市内にはどのような雑木林が保全されているのでしょうか。環境政策課主催の雑木林塾で6箇所の林を巡ってみました。



①稲荷橋の府中崖線



②凸凹山公園緑地（府中崖線沿い）



③都市森の丘（神代植物公園隣）



④上の原公園（江戸時代からの松が残る）



⑤若葉町の緑地（表土が流れた状態）



⑥へび山（郷土博物館分館隣）

都市森の丘以外は全て崖線樹林です。講師の小池先生からはそれぞれの樹林の成り立ちなどを聞きながら落ち葉を踏みしめて歩きました。久しぶりにへび山を訪れた人はその変わりようにビックリ。「見通しが良すぎる」の声がでいていました。

ちょうふの自然

みつけた！

環境市民会議メンバーの
メーリングリストより

1月17日 10日ほど前、「都市森の丘」
（深大寺差路横）でツグミが5〜6羽
飛び立つのを見ました。「ツグミも結構
仲間同士でいるのね」と思ったら数日
前、自宅の庭にも3羽のツグミ。チャ
イニーズホーリー（モチノキ科の赤い
実）をついばんでいました。（NK）
◆あなたが見たツグミも私が中伊豆で
群れでエサを探っているところを見た
ツグミも渡って来てまだ間がなかった
のだと考えられます。1/29の環境モ
ニター探鳥会ではツグミが見られるか
な。（AS）



野川の樹木が伐採されます



自然に生えたシナサワグルミ

グリラ豪雨による
洪水予防のため東京
都河川部は20mと
に1本のみ残り、後
は全伐採していま
す。12/15（水）、調
布区間の調査に市民
団体が立ち会い、残
す樹木を選定しまし
た。姿のいいエゴの

木も根が浅い樹種といふことで伐採樹木に
多く残ったクワも、水際は1本に整理され
ます。経年変化を見ていきましょう。
（身近な川を見守る会：江刺）

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動
を行っています。参加希望者は直接
入間地域センターへ。
●2/20（日）9:30〜12:00
倒木片付け、伐採木の最終選定
●3/20（日）9:30〜12:00

カニ山の会

原則毎月第2土曜に深大寺自然広
場東樹林の保全活動を行っています。
参加希望者は直接野草園横へ。
●2/12（土）10:00〜12:00
●3/12（土）10:00〜12:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目
第3緑地で保全活動を行っています。
参加希望者は直接現地へ。
●2/13（日）9:30〜12:00
●3/13（日）9:30〜12:00

◆先の3グループとも活動への参
加、その他は緑と公園課へお問合せ
下さい。042-481-7083

環境モニター

●3/5（土）10:00〜12:00
「そでろ歩き」西調布近辺の旧甲
州街道沿いに残る歴史と布田崖線
の自然のようすを見て歩きます。
詳しくは2/20の市報で。

ちょうふ環境市民会議

●3/6（日）13:00〜16:00
環境団体と市民の交流会を開催
場所 あくろす3階ホール
詳しくは2/20の市報で。

市民発 ちょうふの自然だより

◆この「自然だより」は2009.3.15に設立された市民組織「ちょう
ふ環境市民会議」が編集発行しています。身近な自然情報や写真、
環境イベント案内、市民活動の記録、花のコラムなどを掲載してい
ます。カンパとボランティアで支えられて現在隔月発行中です。

◆“自然だより”は調布市環境部（市役所8F）、市図書館10館、
地域福祉センター、あくろす2・3F、たづくり11Fみんなの広場、
郷土博物館、実篤記念館、のほか、曼珠苑さん、みさと屋さん、
などに置いてあります。ひきつづき応援団募集中です。

発行：ちょうふ環境市民会議

連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org

※自然に関する情報や写真など、いつでもお寄せ下さい。